

## —編集後記—

今回は 150 号記念特集号をお届けします。van Genuchten 博士, Topp 博士, Dani Or 博士, 登尾博士, 溝口博士に加え, 巻頭言は丸山博士に執筆いただき, 私が学生時代や若い研究者だった頃によく名前を聞いた先生方の原稿を掲載することができました。一編集委員として, 本誌の 150 号記念にふさわしい内容になったのではないかと嬉しく思っています。また, この特集号の目玉として宮本編集委員長が企画した「みんなのミニレビュー」も, 多くの会員の文章を一度に読むことができる, 面白い資料になったと思います。斜め読みするだけでも, 土壌物理の研究対象が多義にわたっていることが実感できるのではないかと思います。この企画が成立したのは, 宮本編集委員長の呼びかけに答え, 執筆いただいた会員の皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

たまたまこの記念すべき 150 号の編集後記を執筆することになりましたが, 宮本編集委員長から「100 号も岩田さんが執筆しているねえ」と教えてもらいました。執筆したことも忘れていたので改めて読み返してみましたが, 100 号は私が初めて編集幹事として本誌の出版に携わった冊子でした。もう 16 年前になりますが, そこに書かれている文章を読むと, あのころはまだ若くて, 実力はなかったけれど夢はあったなあ, と, 恥ずかしいと

いうか懐かしいというか, 複雑な気持ちになりました。

当時は大学や私が勤務する農研機構でも業績評価が導入され, 当時の委員長や事務局の先生方, 編集委員の努力もあり, 土壌の物理性への投稿論文が増え, 冊子もかなり厚いものでした。その後, Open Access をはじめ, 土壌物理の論文を投稿できる雑誌が海外でも増え, ハゲタカジャーナルではなくても土壌の物理性よりも査読の基準が緩い英文誌も出てきたこともあり, なかなか投稿が集まらない期間がしばらく続きました。しかし, こうした冬の時代にも頑張ってこられた事務局や編集委員, 会員の方々の地道な努力もあり, 最近かなり冊子が厚くなってきました。内容的にも, 昔の活気が戻ってきたように思います。100 号が発刊された 16 年前とは, 海外も含め, 土壌物理をとりまく状況は変わりました。海外の雑誌に論文を投稿するのが当たり前になった現在において, この雑誌を投稿先に選んでもらえるということは, この雑誌を含めて本学会の活動がそれだけ魅力のあるものになってきたことを反映しているのかもしれませんが。編集委員としてはもちろん, 一会員としても, これからの本誌の発展が楽しみです。

岩田幸良 (編集委員)

## 土壌物理学会

## 事務局構成

会 長	取出 伸夫	三重大学 大学院生物資源学研究科
副 会 長	諸泉 利嗣	岡山大学 大学院環境生命科学研究科
事務局長	渡辺 晋生	三重大学 大学院生物資源学研究科
庶務幹事	小島 悠揮	岐阜大学 工学部
庶務幹事	廣住 豊一	四日市大学 環境情報学部
編集幹事	亀山 幸司	農研機構 農村工学研究部門
会計幹事	坂井 勝	三重大学 大学院生物資源学研究科
会計監査	岩間 憲治	滋賀県立大学 環境科学部
	水谷 嘉之	三重県 農業研究所

## 編集委員会

委 員 長	宮本 輝仁	農研機構 農村工学研究部門
委 員	朝田 景	農研機構 農業環境研究部門
	岩田 幸良	農研機構 農村工学研究部門
	小林 政広	森林研究・整備機構 森林総合研究所
	坂口 敦	山口大学 大学院創成科学研究科
	千葉 克己	宮城大学 事業構想学群
	常田 岳志	農研機構 農業環境研究部門
	中野 恵子	農研機構 九州沖縄農業研究センター
	濱本 昌一郎	東京大学 大学院農学生命科学研究科